

再開館記念『不在』—トゥールーズ＝ロートレックとソフィ・カル

三菱一号館美術館（丸の内） 2024. 11. 23～25. 01. 26

本展は、設備点検のため長期休館していた再開館記念展覧会で、当館のコレクションや展覧会の核をなす「アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック」(1864～1901)の作品を展示し、「ソフィ・カル」を招聘し協働することで、美術活動に新たな視点を取り込み、今後の発展につなげることを目指している。

「ロートレック」は、ポスターを多く手がけた画家で、今回はあまり知られていなかった作品も多く出展されていて画伯の素顔の魅力が隠れている。

フランスの芸術家である「ソフィ・カル」(1953～)は、本展の主題に長年にわたり考察をめぐらせてきた『不在』を提案している。

彼女は、自身や他者の親密な体験をテーマとして、テキストと写真の併置やオブジェや映像などを組み合わせた手法が特徴とされている。



ロートレック 《メイ・ミルトン》 1895年 リトグラフ・ポスター

モンマルトンの街の壁を飾った華やかなポスターで、色をのせないで線だけで描いた「試し刷」と「完成品」が並べて展示されている。完成品は鮮やかな青色の背景がとても印象的であるが、今回は「線のみ版」も注目される。

ロートレック 《彼女たち 行水の女一たらい》 1896年 リトグラフ

画伯のリトグラフ作品の集大成で、当館では扉絵を含めた全11枚全てを所蔵しているが、皮肉にも好色性や卑猥さが全く感じられないせいか、売上的には失敗に終わったが、画伯の版画技術の粋とともに温かな素顔に触れられる。

ロートレック 《モーリス・ジョワイヤン》 1900年 油彩/板

この肖像画は、海で鶴狩りをする姿を描いた作品であるが、この頃画伯は体調に優れず、モデルに60回以上も同ポーズをとったとされ、華やかさはないが、激しく重々しいひと筆に親友に対する感謝の気持ちが込められている。